

フィガロン乳剤の摘果効果に及ぼすマシン油乳剤の影響

末次信行・野方俊秀 (佐賀県果樹試験場)

Nobuyuki SUETSUGU and Toshihide NOGATA : Influence of Machine oil Spray on the Fruit thinning with Figaron

温州ミカンの摘果剤としてフィガロン乳剤が1981年に登録され普及しているが、価格が高い反面、その摘果効果は種々の要因により必ずしも安定しているとはいえない。そこで、筆者らはフィガロン乳剤にマシン油乳剤を混用することにより摘果効果をより高めるとともに低濃度散布の可能性について検討したので、その結果について報告する。

1. 試験方法

場内植栽の松田系普通温州を用い、1980年にはマシン油乳剤との混用散布ならびに他農薬との混用散布について検討した。また、1981年にはマシン油乳剤の種類およびフィガロン乳剤の低濃度散布について、1982年にはマシン油乳剤およびデラン水和剤との混用散布について検討した。

2. 結果および考察

1) 混用散布による摘果効果 マシン油乳剤の混用により1980年および1982年には明らかに落果率および葉果比が高くなった。1981年は落果率の増加は認められなかったものの、葉果比はフィガロン乳剤単用区の20.9に対し、混用区は25.8となり3ヵ年を通じてマシン油乳剤の混用による摘果助長効果は認められた。

2) マシン油乳剤の種類とフィガロン乳剤の低濃度散布

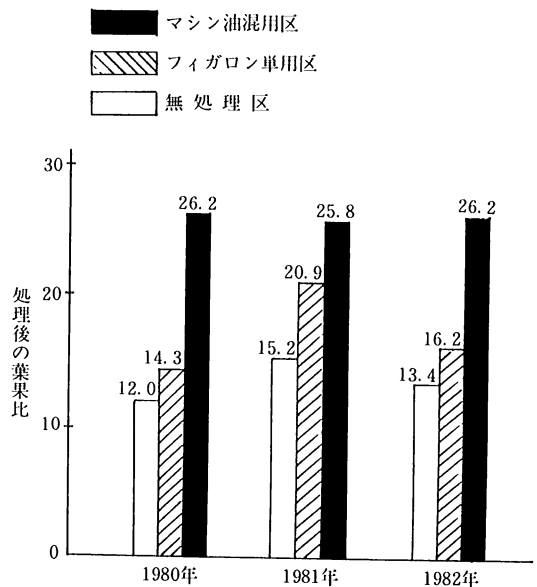
1981年に97%マシン油乳剤1種類、98%マシン油乳剤2種類とフィガロン乳剤2,000倍および4,000倍液との混用散布を行ったが、マシン油乳剤の種類による差異は認められなかった。また、フィガロン乳剤4,000倍液にマシン油乳剤を混用した区はフィガロン乳剤2,000倍単用区よりわずかに着果率が高い程度であったが、摘果効果としては不十分であった。

3) 果実品質に及ぼす影響 1980年および1982年にはマシン油乳剤混用処理により糖度、クエン酸含量ともに高く着色もよくなったが、その差異は小さかった。また、1981年は糖度、クエン酸含量ともにわずかに低く、着色もやや劣ったが、無散布区に比べるとすぐれていた。

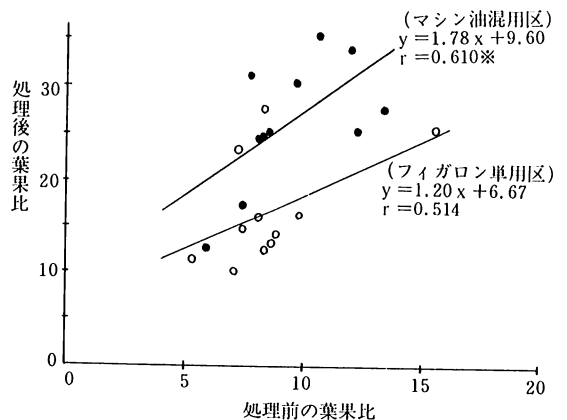
4) 他薬剤との混用散布による摘果効果 Mダィファー水和剤500倍の混用は落果を助長し、特に20mm以下の小果の落果が多かった。また、ラビライト水和剤500倍およびデラン水和剤1,000倍との混用はフィガロン乳剤単用区と同等の摘果効果を示した。しかし、クレフノン水和剤200倍加用コサイド水和剤2,000倍との混用は明らかに摘果効果を抑制し、無処理区と同じであった。

5) まとめ 以上のことより、マシン油乳剤との混用散布は明らかにフィガロン乳剤の摘果効果を助長するとい

えるが、その程度は年次等種々の要因により異なり、場合によっては過剰摘果となる危険性がある。したがって、間引き摘果剤としての利用ではなく全摘果剤としての利用が望まれるが、その場合は一層の成果が期待できる。



第1図 マシン油乳剤の混用がフィガロン乳剤の摘果効果に及ぼす影響



第2図 処理前の葉果比とマシン油の混用効果